

今の高梁市にとって、若者の、
高校生の意見は本当に貴重である



小黒 ゆかり 議員



▲動画視聴はこちらから

**小規模校に大規模校の
メリットを取り入れるためには**

小黒 高梁高校の探究学習報告会の中で、小規模校に大切なのは「地域・生徒数・校風に合わせた個々に最善を尽くす」という発表があったが、市としてどのような取り組みが考えられるか。

教育次長 学校の規模を問わず、どこの学校でも一定の水準の教育を提供することが私たちの使命である。教育格差をなくし学びを充実させ新しい時代を生き抜く力を育てていきたい。

スクールバスについて

小黒 親の送迎がなくても、子どもだけで通学できるような手助けはできないか。

鳥インフルエンザについて

小黒 発生した場合、養鶏場への道幅は狭く車をかわす場所がないが。

産業経済部長 全路線の改良は難しいが、待避所を設ける計画はしていきたい。財源の確保についても要望を出しているところである。

パッカー車について

小黒 パッカー車が老朽化しているが更新は考えてないのか。

市民生活部長 更新について検討しているメニューはある。

交流人口より関係人口を増やす対策を
推進すべきではないか



川上 博司 議員



▲動画視聴はこちらから

観光政策について

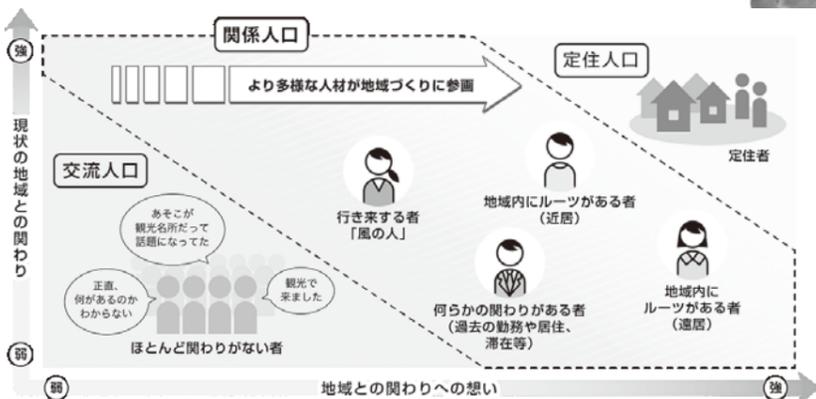
川上博 交流人口より関係人口を増やす対策を推進すべきではないか。

市民生活部長 総合計画に関係人口に関する施策を設ける予定である。ふるさと住民登録制度等の国の動向も注視しながら関係人口の創出と拡大に取り組んでいく。

空き家対策について

川上博 所有者が、空き家バンクに登録しやすいように工夫すべきではないか。

市民生活部長 高梁観光交流センター内に設置した「高梁市空き家と移住の相談窓口」では、相談内容によって最適な空き家の出口戦略をアドバイスできる



(総務省 二地域居住・関係人口ポータルサイトより)

体制を整えており、空き家情報バンクのウェブサイトも刷新し、利便性の向上を図っている。

豪雨災害の早期復旧を



松岡 隆雄 議員



▲動画視聴はこちらから

豪雨災害の被害・復旧状況と支援

松岡 備中地域の豪雨災害における被害状況は。

総務部参与 家屋については、土砂流入が8件、床下浸水が2件発生。市道・河川は、倒木や路肩崩落などにより75件の被害を確認。農道・農地は39件の被害があり、このうち農地は29件・18戸で、23件が水田である。

松岡 復旧状況と今後の見通しについては。

総務部参与 家屋については、見舞金の支給、土砂除去扶助給付決定を行っている。道路は災害発生当初から復旧に取り組み、現在は市道3路線、県道4路線、林道1路線が通行不可となっている。農地については、一定規模以上のものは、令和

8年度内に順次復旧を進めていく予定である。なお、県道については復旧に長期間を要する見込み。

松岡 国や県への要請状況、補助金・交付金の活用状況については。

総務部参与 国の災害査定を受けている。また、11月14日付で激甚災害の指定を受けた。

松岡 補助制度の内容や復旧の進捗状況を簡潔にまとめた資料を市が作成し、住民に対して説明会を実施してほしい。今後も国・県との連携を強化し、各種補助制度を最大限に活用して、住民の生活が一日でも早く通常に戻るよう、引き続き積極的に取り組んでもらいたい。

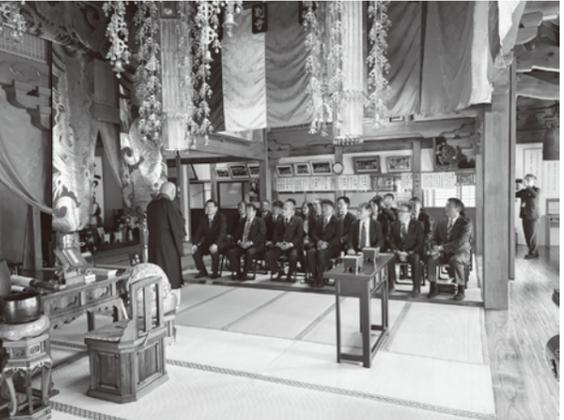
激甚災害指定とは
被害が特に大きい場合に国が指定する災害で、復旧に対する国の支援が手厚くなります。

CHIKUSEI CITY



筑西市を訪問

筑西市と高梁市は、平成19年に友好都市を再締結し、平成30年西日本豪雨災害ではいち早く職員の出遣をいただきました。下館藩(現在の筑西市)二代藩主水谷勝隆公が1642年備中松山城主藩主として入城したのが両市の交流の機縁です。水谷氏は三代にわたる城主を務め、飛地である玉島港の整備や高梁川の高瀬舟による航路開発などを行い現在の高梁市の基盤形成に大きく寄与しました。これからも行政・議会間の交流を通じて連携を強化するだけでなく、歴史と文化を共有する友好都市として交流事業の充実を図ってまいります。



水谷家菩提寺 定林寺



歓迎の様子 筑西市役所